





祝辞 東京島根県人会 副会長 加藤哲夫さん

本日、県人会会長の坂根さんとともに、中山間地域における公共建築物の模範となるものであり、一度是非伺いしてみたい... (中略) ...



祝辞 島根県東京事務所 管理行政部長 古満 繁さん

本日、雲南市東京ふるさと会第6回交流会が、さとも盛大に開催されました。心からお喜び申し上げます。難波会長をはじめ役員の方々のご尽力の賜物と敬意を表させていただきます。先程より話がありました大雨の件ですが、島根県でも西部地域では約300戸の床上・床下浸水被害が出ています。...



ふるさと近況報告 雲南市政策企画 部長 佐藤 満さん

胃袋にはたっぷりとお酒を注ぎ込んで耳だけお貸しください。雲南市におけるこの1年間の主な出来事3件を挙げるならば、まず雲南市立病院が新しくなった事です。地域の人口と共によりなると言う事で共存病院としてやって来て、ちょうど節目の70年で建て替えが終わったものです。...

せっかくなので、紹介させていただきます。一人の女性が一生の間産む子供の数が1.75で全国2位、人口が850で2位、都市公園5位といったところで、島根県は子育てしやすい環境が整っている。お知り合いの皆さんの中に地方への定住に興味をお持ちの方がおられましたら、是非大勢の方が参加してくださいませ。...

この会が皆さんにとつて有意義で楽しいものになりますように、また皆さんのご健康・ご発展をお祈りして挨拶と致します。本日はおめでとございます。 (その他項目は別表)



おたのしみ抽選会 特別賞品 市長賞・奥出雲和牛セット「速水雄様」×1名... (中略) ... うんなん便り (雲南市からのお知らせ) 日本は25年先の未来を歩く雲南市。そんなまちの未来をつくろうと様々な課題に前向きに挑戦する人が生まれ、少しずつ成果を生み出しています。雲南市は、その挑戦をまち全体に広げ、10年後も20年後も市民みんながいよいよと暮らせる魅力あるまちづくりに挑戦しています。雲南市の「食の幸」を活かした返戻品も贈呈していますので、ふるさと納税で雲南市の挑戦を応援いただきますようお願いいたします。(雲南市政策企画部政策推進課)

# 講演会

演題…出雲国譲り神話から  
みる日本のルーツ  
講師…吉木蒼絵



## ふる京東京市



国家であるという事を示そうとしたものと考えられます。

対して古事記は日本人向けに大和(まこと)言葉で書かれ、物語が文学的な表現で紡がれ日本人の琴線に触れるような内容となっているのが大きな特徴です。その古事記のハイライトとなる物語が出雲の国譲り神話ということになります。

古事記では高天原(たかまがはら)・天照、黄泉(よみ)の国(よみくに)・死者の世界、葦原(あしはらの)の国(あしはらのくに)・高天原と黄泉の国の中間にある地上世界の3つの世界観があつて、これらの間を行き来することが出来るわけですから、地上世界はもともと大国(おほいそ)の命(こと)によって統治されてきたと、天津神(あまのかみ)と天照大神(あまのてら)の子孫(こむすこ)達が天上界(あまのたか)からこれを見て「なんだか地上世界は騒がしいな」と捉え、これは自分たちが統治すべき国(こくに)であつて、不条理にも大国(おほいそ)の命(こと)に国(くに)を譲るよう迫る訳です。普通、国(くに)を譲るよう迫られれば必ず争(い)いが生(は)まれる訳ですが、不思議にも出雲(いずみ)の国(くに)では多少の押し問答(おしとがた)の相撲(あひまはり)の起源(もと)があつたものの、基本的には争(い)いはなく話し合(あ)ひで解決(かいけつ)されることになりました。国(くに)を譲る(ゆづ)ることになると、天照大神(あまのてら)の子孫(こむすこ)であるニギハヤヒ(にぎはやひ)が地上(あまのくに)に降り降臨(くだり)して来て、その後その子孫(こむすこ)が代々(よつぎよつぎ)この地上(あまのくに)世界(よこ)を治(さ)めることになり、初代(はつだい)の神武天皇(じんぶてん)が奈良(なら)の宮(みや)で即位(ことう)するとい

日本の成立ちを考える時、出雲の神話は欠かせない

私は、出雲の国譲り神話(出雲の神話)は日本の根本(もと)であり、出雲の神話(出雲の神話)が無ければ日本の神話(出雲の神話)は成り立たないと考えています。

### 日本書記は学術的 古事記は文学的

日本書記は学術的であつて「○○書に曰く(あるふみいわく)」といったように論文(ぶんろん)を引用(引用)する形式をとつています。また当時のグローバル言語(グローバル言語)である漢文(かんぶん)で書かれており、大陸(たいてい)向け(むかへ)「日本(にっぽん)は独立(どくりつ)した主権(しゅけん)擁護(ようご)の宮(みや)で即位(ことう)するとい

### 古事記では物語の ほとんどは出雲が舞台

古事記においては、この国譲り神話を始めとして物語(ものがたり)のほとんどが出雲(いずみ)を舞台(たいがい)としたものなのです。不思議(ふしぎ)ですね。前述(ぜんじゆ)の通り古事記(こしじ)は大和朝廷(おほいそてんてい)が編纂(へんさん)した(た)大和朝廷(おほいそてんてい)の思想(しゆしゆ)が入(い)つたものなのに、何故(なに)かここ(こ)まで出雲(いずみ)を舞台(たいがい)とした物語(ものがたり)が多いのか、何故(なに)か出雲(いずみ)の国(くに)に氣(き)を遣(つか)うのか。

### 大和政権が緩やかに 日本を統合

弥生時代(やぎや時代)は稲作技術(いねづくり技術)が入(い)りて来た(来た)事で知られていますが、魏(き)の国(くに)が書いた魏志倭人伝(きしわじんでん)では2世紀(にせいき)後半(後半)の日本(にっぽん)におきた戦(いくさ)のことを「倭国乱(わこくにんらん)」と書いているように日本(にっぽん)は騒(さわ)がしい時代(じだい)、国(くに)と国(くに)が対立(たいりつ)していた(騒(さわ)がしい)時代(じだい)であつたと書(か)われています。

しかし大和政権(おほいそせいけん)によってこれらの国々(こくに)が徐々に統合(とうごう)されて行くのが弥生(やぎや)時代(じだい)の後(のち)から古墳(こふん)時代(じだい)にかけての出来事(出来事)で、しかもその統合(とうごう)のされ方が非常(ひじょう)に緩(ゆる)やかであつたと考(かんが)えられています。

### 奈良・桜井市には纏向(まむき)古墳(こふん)と 前方後円墳(まへうしろまるかき)の古墳(こふん)がある

奈良(なら)・桜井市(さくらい)には纏向(まむき)古墳(こふん)と前方後円墳(まへうしろまるかき)の古墳(こふん)があり、前方後円墳(まへうしろまるかき)として有名な箸墓(しほりむす)古墳(こふん)は古墳(こふん)の古(いにしへ)の時代(じだい)に作(つく)られたもので、この前方後円墳(まへうしろまるかき)の誕生(たんじゆん)をめぐり古墳(こふん)時代(じだい)、つまり大和政権(おほいそせいけん)の始まり(はじまり)であると言(い)われています。

### 出雲は最後まで個性を 保ち続けた

一方(いつぱう)、出雲市(いずみ)の西谷古墳(いせやふるみ)は四隅突出(しごもとっしゆ)型(がた)という珍しい形(かたち)をした古墳(こふん)があります。この形式(けいしき)は出雲(いずみ)を中心(ちゆうしん)とした日本(にっぽん)海側(うみがは)にしか見(み)られないもので、2世紀(にせいき)末(ま)から3世紀(さんせいき)半(はん)ばに作(つく)られたものです。

大和政権(おほいそせいけん)成立(せいりつ)が3世紀(さんせいき)初頭(しゆとう)であり、3世紀(さんせいき)半(はん)ばと言(い)えば全国的(こくたいてい)には前方後円墳(まへうしろまるかき)が汎用(はんよう)された時期(じき)で、つまり日本(にっぽん)の大半(たいはん)の地域(ちいき)が大和政権(おほいそせいけん)の支配(しはい)下(か)に入(い)っている時期(じき)です。そんな時代(じだい)になつてもまだ出雲(いずみ)はその政權(せいけん)下(か)に入(い)っていません(な)かつたと考(かんが)えられます。



### 大和政権が国を統合し 共存共栄

また4世紀(よんせいき)頃(ころ)には出雲(いずみ)大社(おほいそ)の境内(けいん)でも大和(おほいそ)の祭り(まつり)が行(おこな)われています。この時代(じだい)に同様の祭祀(どうようたいてい)が行(おこな)われていたのは全国(こくぜん)で4か所(か所)しかなく、この事(こと)からも出雲(いずみ)が大和政権(おほいそせいけん)下(か)に入(い)つた重要な場所(じやうやうなばしよ)であつたとい(い)う事がわかりま(か)す。

異なる地方(いんぎやう)の異なる神(かみ)や祭(まつり)を相互(たがひ)に尊重(そんじゆう)して強要(きやうよう)はしなかつた。大和政権(おほいそせいけん)成立(せいりつ)時には共存共栄(こくごんきやう)のシステム(システム)が確立(たてまつ)されていたとい(い)う事の表(あらわ)れであつて、まさにその様子(ようす)が古事記(こしじ)に描(えが)かれてい(い)ると考(かんが)えま(か)す。

### 日本(にっぽん)人は「遠い先祖(とおいせんぞ)と繋が(つな)がっている」

私たち(わたしたち)日本人(にっぽんじん)は「遠い先祖(とおいせんぞ)と繋が(つな)がっている」という感覚(かんかく)を普通(ふつう)に持(も)っている。しかし(し)西洋(せいやう)や中国(ちゆうごく)、朝鮮(ちやうせん)半島(はんとう)など(など)は歴代(れきだい)王朝(てうわう)が違(ちが)う、民族(みんぞく)も血(ち)も信(しん)仰(やう)も違(ちが)い、持(も)っている神話(しんわ)も違(ちが)うわけ(わけ)で、直接的(てきせき)に「昔(むかし)と自分(おれ)たち(たち)との繋(つな)がり」を感(かん)じる機(き)会(かい)はな(な)いのかと考(かん)が(かんが)えま(か)す。



- ①次回(第7回総会)は来年(来んねん)(現元号(げんげんごう)で平成(へいせい)31年(2019年)7月13日(土)に開催(かいかい)予定(よきん)です。
- ②次回(おみ)みなさん(さん)から「お楽しみ(おんごころみ)抽選会(ちゆせんかい)」用品(ようぶひん)の提供(ていきやう)を歓迎(かんげん)いたします。
- ③福島(ふくしま)県(けん)石川(いしかわ)町(まち)応援(えんげい)ツア(ツアー)は諸事情(しよじきやう)により(よ)り中止(ちゆうし)します。

私(わたし)たちはこんなに素敵(すてき)で、日本(にっぽん)にとって根本(もと)的な神話(しんわ)を頂(たか)うているとい(い)う事を忘(わす)れず(ず)に歩(あ)んでい(い)けたら、より輝(かがや)けるのではない(ひやうではない)かと思(おも)います。

「出雲(いずみ)の国(くに)が素敵(すてき)なのは出雲(いずみ)の神(かみ)々が素敵(すてき)だから、雲南(うんなん)が素敵(すてき)なのは雲南(うんなん)の神(かみ)々が素敵(すてき)だから」とい(い)う事(こと)を胸(むね)に、こんな(こんな)都会(たいてい)でも生(は)きて行(い)けたら良(よ)いなと考(かんが)えてい(い)ます。

吉木蒼絵(よしかみあおい)さん(吉木蒼絵(よしかみのりえ)さんのプロフィール)は作家(さか)家(か)であり、古事記(こしじ)アーツ(arts)研究所(kenkyukai)の理事(りじ)であり、海(うみ)上(じやう)自衛隊(じゆうたい)幹部(かんと)学校(がく)教員(きゆういん)研究(けんきゆ)員(いん)であり、JPOP(ア)ーツの活動(かどつ)ではコノハナサクヤヒメ(さくやひめ)から採(と)れた佐久(さく)弥(や)留(れい)イ(い)の名義(なごう)を用(よう)いてい(い)ます。

